

るし上げ」にした、日本政治研究史（そして日本政治学史）上に残る問題作であり傑作。この本の迫力と含蓄を本場に堪能するには、丸山眞男から大嶽自身の研究に至るまで、戦後の日本政治研究を総覧する必要があるが、最初に本書を読むのも読書ガイドになつてよい。

④『憲法と世論——戦後日本人は憲法とどう向き合ってきたのか』（筑摩書房、二〇〇七）

日本人の憲法意識について包括的にデータを収集し、分析した研究書。政治学だけでなく、法学を志す方も是非。

『政治参加論』（共著、東京大学出版会、二〇二〇）

ことばをめぐる

17の視点

人間言語は

「雪の結晶」である

◎定価1870円(税込)

アンドレア・モロ〔著〕
今井邦彦〔訳〕

生物学者である著者が、プラトン、ペイコン、デカルト、ソシュール、チョムスキーなど古代から現代まで17の視点から言語論を取り上げ、言語研究の歴史を紐解く。

政治学の一分野として、有権者の政治参加行動に関する研究がある。本書は、政治参加に関する諸理論を整理、紹介する概説書であり、戦後日本人の政治参加について実証分析を試みた研究書でもある。

佐々木 敏

（医学系研究科医学部教授
予防医学・栄養疫学）

①『推理する医学』バートン・ルーチエ／山本俊一訳（西村書店、一九八五）

学生のころに読んだ。謎の病気の原因を探り疫学者が奔走するようすをドキュメンタリータッチで描いた一般書。具体的な内容はすっかり忘れてしまったが、疫学のおもしろさに魅了された記憶は褪せない。

『壊血病とビタミンCの歴史——「権威主義」と「思いこみ」の科学史』ケニス・J・カーペンター／北村二朗・川上倫子訳（北海道大学図書刊行会（現北海道大学出版会）、一九九八）

栄養学者による歴史書。二段組みで三五〇頁余。一流の研究者とはここまで緻密に史実に向き合うものかと感心した。そして何より副題が良い。いつまでもこういう視点を失いたくないものだ。

③『社会を変える健康のサイエンス——健康総合科学への21の扉』東京大学医学部健康総合科学科編（二〇一六）

人は社会のなかで病に倒れ、社会のなかで癒される。病に特化する前に、社会とい

国際 バカロレア 教員に なるために

TOKとDP6 教科の
学びと授業づくり

半田淳子〔編著〕

TOK（知の理論）と、DP（ディプロマプログラム）全6教科（言語と文学、言語習得、個人と社会、理科、数学、芸術）の、カリキュラムから授業づくりまで徹底紹介。IB教員養成大学の情報、現役IB教員の声も収録。

◎定価 2530 円(税込)

大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島 2-1-1
TEL 03-3868-2651 (販売部)
<https://www.taishukan.co.jp>

う場で健康が持つ意味と課題を多角的に科学すべきである。本学医学部健康総合科学科教員による健康科学の入門書。私の話は最後、第20章に出てきます。

④ 『佐々木敏のデータ栄養学のすすめ——氾濫し混乱する「食と健康」の情報整理する』(女子栄養大学出版部、二〇一八)

『佐々木敏の栄養データはこう読む——疫学研究から読み解くぶれない食べ方』(女子栄養大学出版部、二〇一五/第2版、二〇二〇)

「栄養疫学」というわが国では超マイナーな学問を専門としている。しかし、栄養疫学は、(おいしさも食べる楽しも環境も経済も考慮したうえで)何をどれだけどのように食べれば健康を保ち病気になるか、何をどれだけどのように食べれば病気を改善できるかを疫学的に探り、その具体的な方法を示す学問であり、世界中の人々の生命と健康を静かに支えるまじめな学際科学である。ところが日本では、怪しげなテレビ番組や雑誌、週刊誌、ネット世界の好餌と堕している。こんなふざけた世の中を少しは正さねばと、専門書ではなく

敢えて一般書として(ですます調で)書きました。入門書としても、実用書としても、一部は旅エッセイとしてもお楽しみいただけます。

しもだまひろ
下田正弘
(人文社会系研究科・文学部
教授/インド哲学仏教学)

① 『日本とアジア』竹内好(ちくま学芸文庫、一九九三)

近代中国文学研究を専門とする著者は、近代の歴史に現れたアジア的なものを、西洋と日本との対比において顕在化させ、歴史思想研究における「方法としてのアジア」という、かつてない地平を開いた。サイドによるオリエンタリズム批判が生まれるはるか以前に、文学の視座から西洋中心の視座を相対化し、あらたな世界史を描こうとした批判精神は鮮烈である。

『日本文藝史』(全五巻)小西甚一(講談社、一九八五—一九九二年)

ひとりの個人が古代から現代までの日本の文藝全体を平明な文体において網羅的に論じ尽くす離れ業には驚嘆するほかない。文学として現れた日本の思想には、東アジア

アのなかでも特異な共同体的特性が看取される。

② 『東洋哲学覚書 意識の形而上学——『大乘起信論』の哲学』井筒俊彦(中公文庫、二〇〇一年)

イスラム神学を中心にすえ、西洋と東洋の双方の思想を射程に入れながら、壮大にして精緻な東洋哲学の構築を試みた思想家の残した足跡は、思想として仏教を解明しようとするとき、きわめて上質な道案内となる。

『仏典解題事典 第三版』下田正弘ほか編(春秋社、二〇二〇)

東大文学部インド哲学仏教学研究室・インド語学インド文学研究室の新旧教員七名が編者となり、広大なアジアにわたる仏教とインド思想についての主要な一次文献について、最新の研究成果を踏まえて解説した事典。仏教の全体が正確な知識をおしと概観できる。

③ 『日本政治思想史研究』丸山眞男(一九五二)

あらゆる意味での名著。四十年ほど前、およそ専門の異なる印度哲学の修士論文の

学問の図像とたち・244 イラストから読む教科書 「家事」を「家族事」に 寺田寅彦

アンケート 東大教師が新人生にすすめる本 1

〔東京大学南原繁記念出版賞を受賞して〕森に分け入っていく 東京大学南原繁記念出版賞受賞から一〇年 鶴見太郎 20

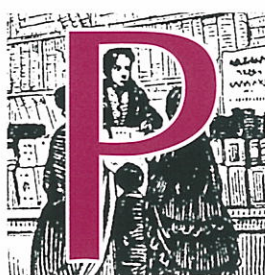
〔パンデミック時代の共生〕5 人種融合に向けた「一時的分離」という戦略 森 千香子 26

〔論文の森のアーク〕16 「だって寒いんだもの」……だけじゃない 小林洋美 32

〔たまには物理カンタービレと〕62 ぼくは正しかっただろう？ 太田浩一 34



UNIVERSITY PRESS



4

創立70周年

● Number 582, April 2021

東京大学出版会

〔日本美術史不案内〕143 こねること、削ること 佐藤康宏 40

〔言語学パトリ・トゥード〕13 生産者の顔が見える原稿 川添 愛 42

〔書評〕179 新しい公共空間を開く 田尾陽一『飯館村からの挑戦——自然との共生をめざして』 中島隆博 48

すゝしろ日記 第192回 山口 晃 54

学術出版 55 執筆者紹介 56